

意見交換



天竜川水系におけるドローン航路の利活用 (取組状況・各種動向の報告)

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム

ドローン利活用（浜松市内）に関する取組状況

2025年3月25日、ドローン航路開通！

経済産業省「デジタルライフライン全国整備計画」に基づき、浜松市内に空のみち「ドローン航路」が世界に先駆けて開通。

航路を活用することで次のようなメリットを実現

- ドローンの飛行に係る利用申請が**簡略化**
- 事業者など関係者との調整が**効率化**
- リソースシェアにより稼働率が**向上**



関係者によるテープカットを実施

航路を活用したサービスが実装！

- **阿多古航路**：あたご診療所内における、市内の眼科医（小出眼科）が実施する定期巡回診療に合わせた医薬品配送（2025年3月）
- **春野航路**：もちの木診療所内における、袋井市の眼科医（やまなしクリニック）が実施する定期巡回診療に合わせた医薬品配送（2025年9月）

このほか、買物難民の解消や災害時の物資輸送、河川の巡視・点検などマルチパーパスでの活用を目指す。



株式会社トラジェクトリー

会社概要

2026.1



株式会社トラジェクトリー

本社：東京都港区虎ノ門2-2-1 住友不動産虎ノ門タワー17階 Room 7

支社：静岡県浜松市中央区鍛冶町100-1 ザザシティ浜松中央館 B1F

Co-startup Space & Community FUSE

創業：2018年3月

事業概要：空間情報管理システム（SDSP：Supplemental Data Service Provider）
航空管制システム（USS：Unmanned Aerial System Service Supplier）



CEO役職

- 「IPA デジタルアーキテクチャデザインセンター（DADC）」4次元時空間情報基盤アーキテクチャ検討会委員
- 「デジタルライフライン全国総合整備計画ドローン航路普及戦略WG」検討委員
- 「次世代空モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト・ドローンの運航管理に関する意見交換会（ドローンWG）」委員
- 「NEDO ドローン運航管理委員会（ReAMoプロジェクト）」空飛ぶクルマ・ドローン標準化WG検討委員
- 東三河ドローン・リバー構想推進協議会 物流WG・災害対応WG座長代理
- 浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム構成員
- 加賀市次世代エアモビリティコンソーシアム構成員

連携協定

- 石川県加賀市
- 愛知県豊川市・新城市

デジタルによる社会課題解決・産業発展

人手不足解消による生活必需サービスや機能の維持

人流クライシス

中山間地域では
移動が困難に…

物流クライシス

ドライバー不足で
配送が困難に…

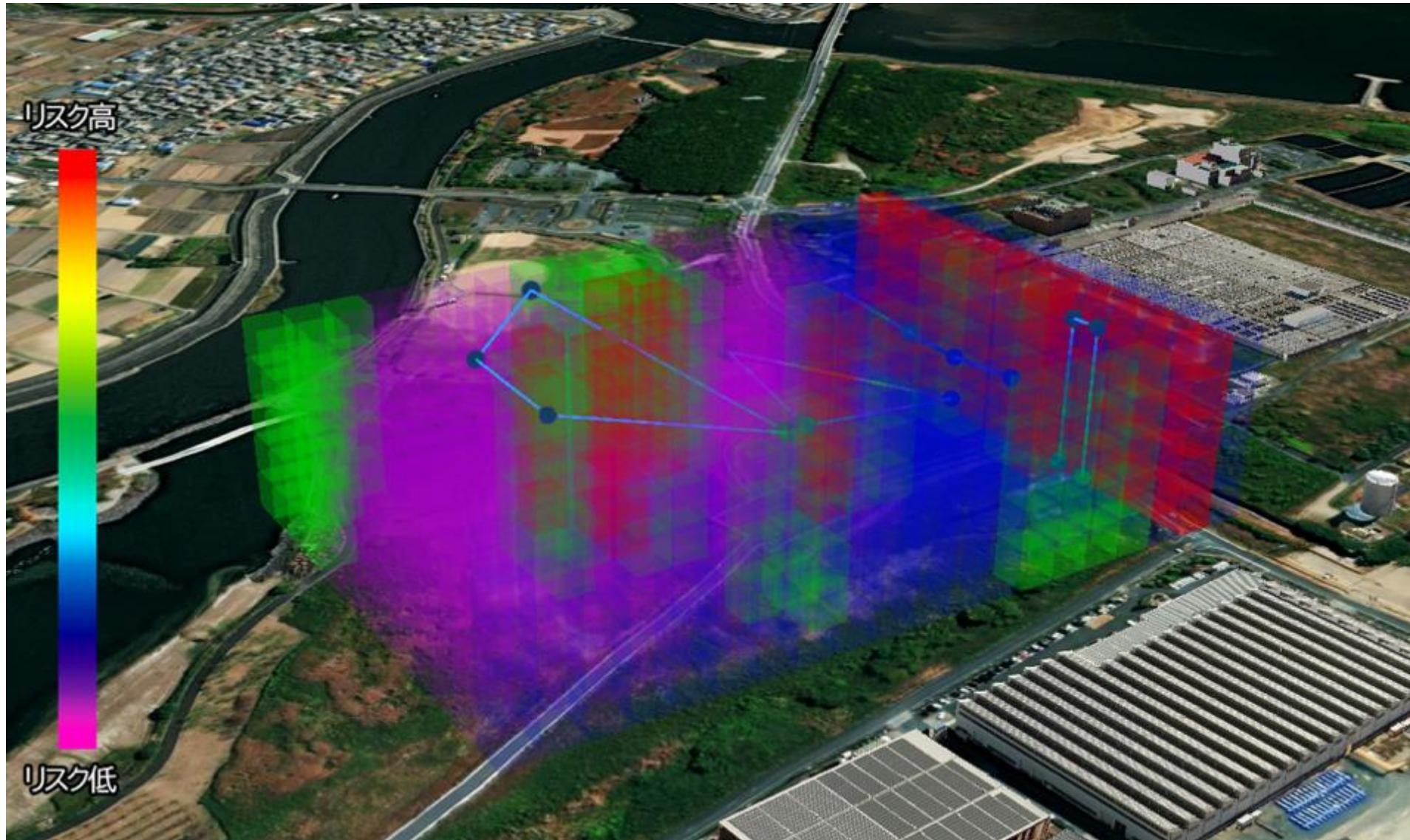
災害激甚化

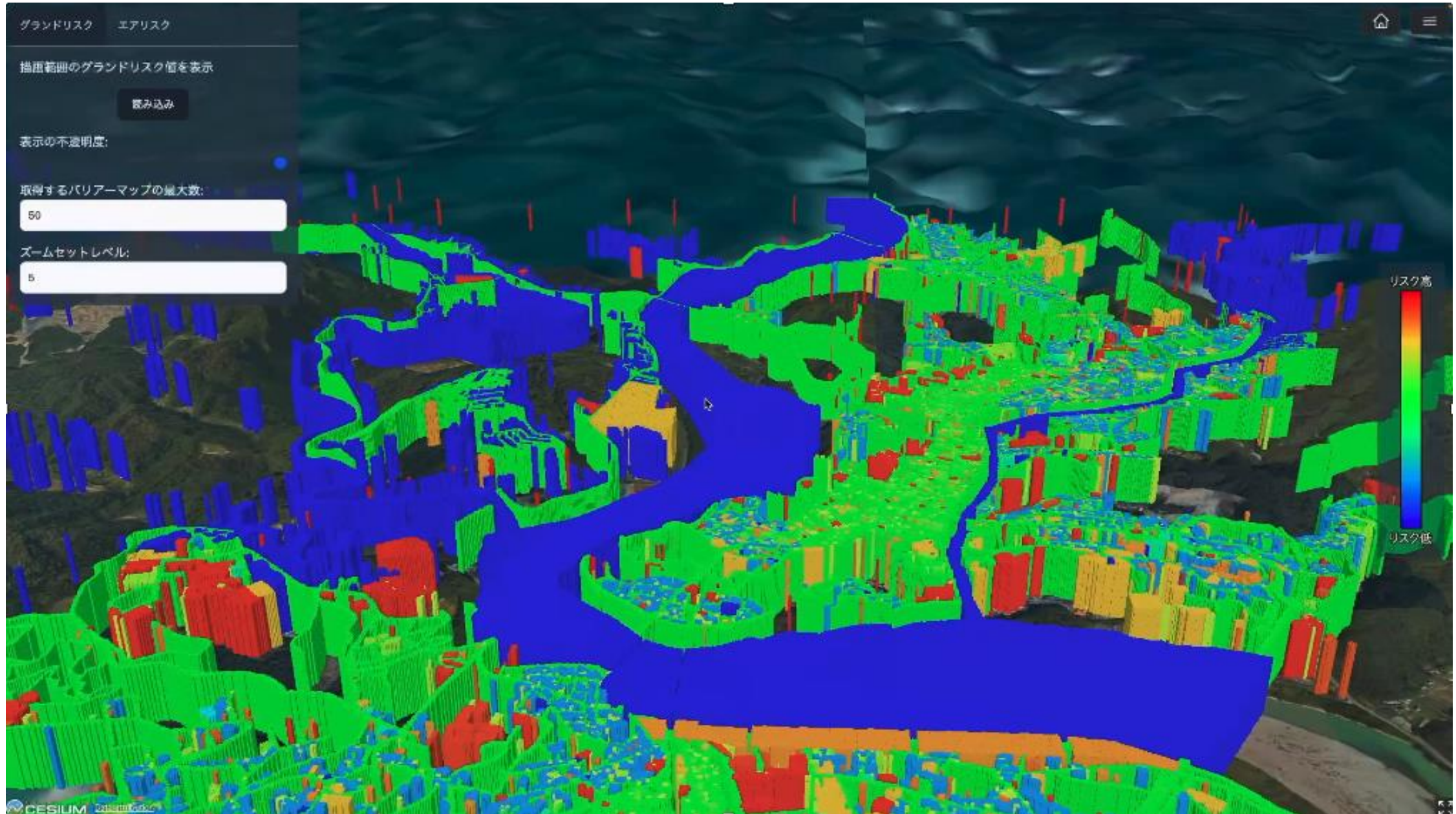
災害への対応に
時間を要する…

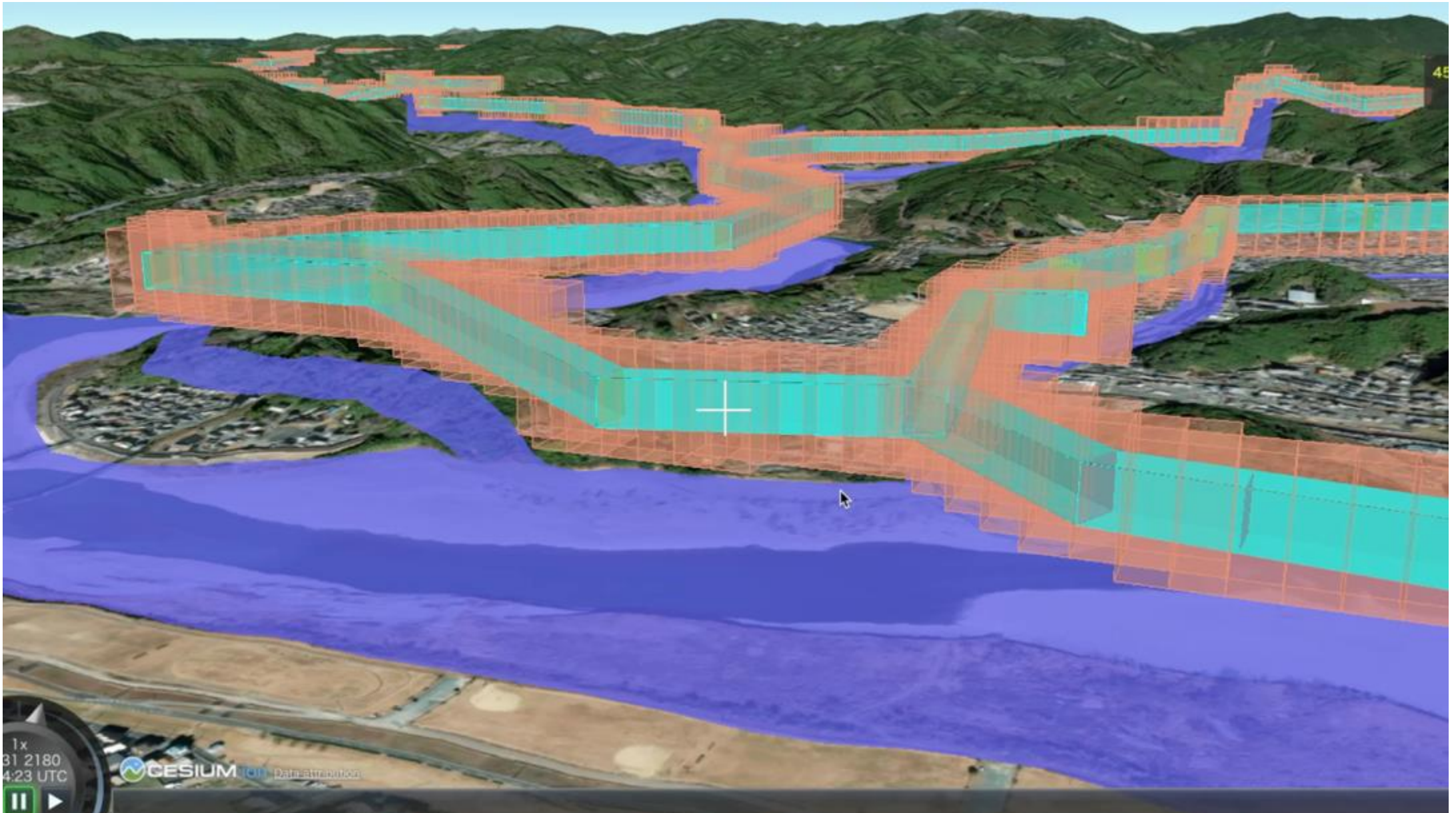


人口減少した未来において
今の街に住み続けられる

ドローンや空飛ぶクルマなどのロボットが空間を移動できる空間管理技術











自動運転やAIの社会実装を加速：「点から線・面へ」「実証から実装へ」
デジタルライフライン全国総合整備計画の概要

- 人口減少が進むなかでもデジタルによる恩恵を全国津々浦々に行き渡らせるため、約10年のデジタルライフライン全国総合整備計画を策定
- デジタル完結の原則に則り、官民で集中的に大規模な投資を行い、共通の仕様と規格に準拠したハード・ソフト・ルールのデジタルライフラインを整備することで、自動運転やAIのイノベーションを急ぎ社会実装し、人手不足などの社会課題を解決してデジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成に貢献する

デジタルによる社会課題解決・産業発展

人手不足解消による生活必需サービスや機能の維持

人流クライシス

中山間地域では
移動が困難に…

物流クライシス

ドライバー不足で
配送が困難に…

災害激甚化

災害への対応に
時間を要する…

アーリーハーベストプロジェクト

2024年度からの実装に向けた支援策

ドローン航路

180km以上

【送電線】埼玉県秩父地域
【河川】静岡県浜松市(天竜川水系)

自動運転サービス支援道

100km以上

【高速道路】新東名高速道駿河湾沼津SA
～浜松SA間
【一般道】茨城県日立市(大妻駅周辺)

インフラ管理のDX

200km²以上

埼玉県 さいたま市
東京都 八王子市

奥能登版デジタルライフライン

有事に人がどこにいるかを把握するための共通の仕組みを平時から活用するためのインフラ整備等

デジタルライフラインの整備

ハード・ソフト・ルールのインフラを整備

ハード

- ✓ 通信インフラ
- ✓ 情報処理基盤等(スマートたこ足)
- ✓ モビリティ・ハブ(ターミナル2.0、コミュニティセンター2.0)等

ソフト

- ✓ 3D地図
- ✓ データ連携システム(ウラノス・エコシステム等)
- ✓ 共通データモデル・識別子(空間ID等)
- ✓ ソフトウェア開発キット等

ルール

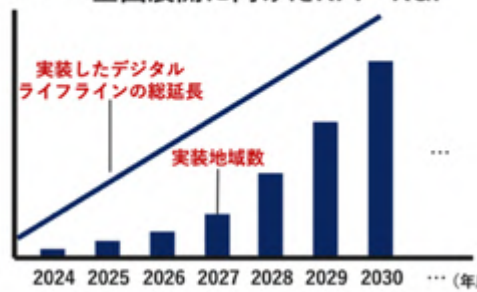
- ✓ 公益デジタルプラットフォーム運営事業者認定制度
- ✓ データ連携システム利用のモデル規約
- ✓ アジャイルガバナンス(AI時代の事故責任論)等

※ 国土形成計画との緊密な連携を図る

中長期的な社会実装計画

官民による社会実装に向けた約10カ年の計画を策定

(箇所/距離) 全国展開に向けたKPI・KGI



先行地域(線・面)

国の関連事業の

- 1 集中的な優先採択
- 2 長期の継続支援
- 3 共通の仕様と規格

Copyright © 2024 METI/DADC



浜松市

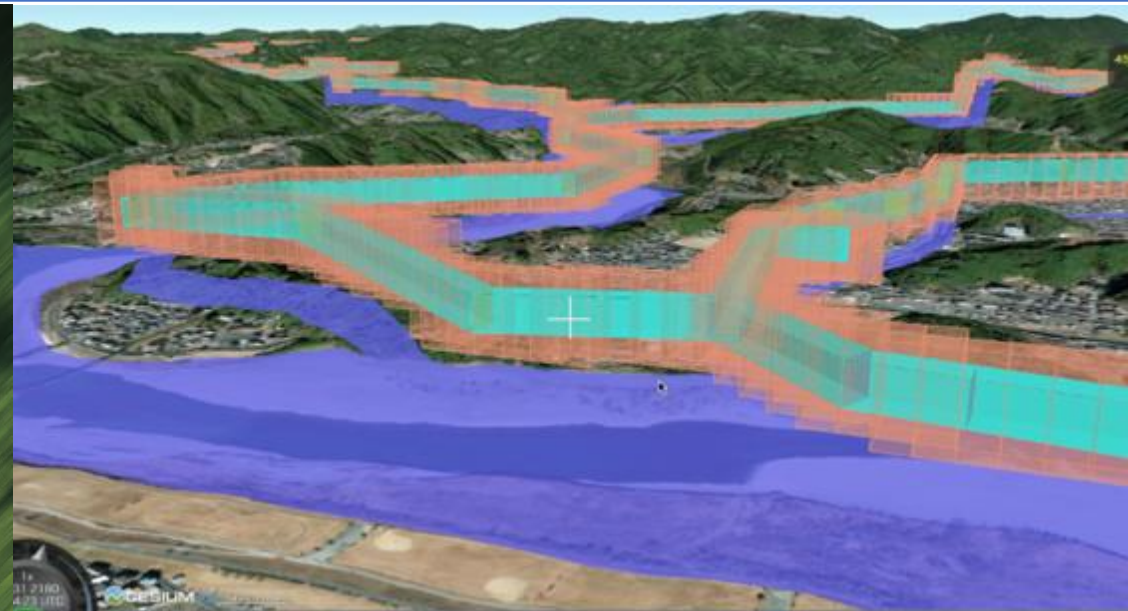
2025

天竜川水系[浜松市]上空

世界初、 ドローン航路 開通

届けたい人がいる 待っている人がいる

HAMAMATSU CITY

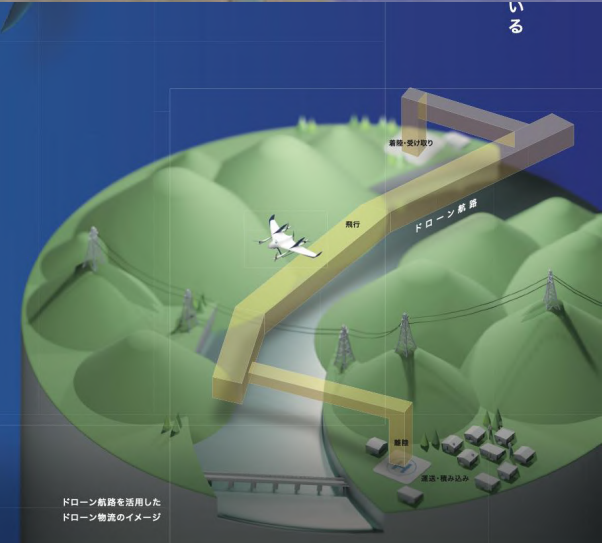


未来の空が、もっと身近になる。

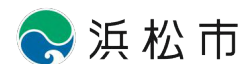
新たな空のインフラとして、世界初となる「ドローン航路」が
天竜川水系(浜松市)上空に整備されました。
より安全性・効率性の高い「ドローン航路」を活用し、
様々なサービスの社会実装を加速します。

航路総延長

180Km



ドローン航路を活用した
ドローン物流のイメージ



浜松市デジタル・
スマートシティ推進課

〒430-8652 浜松市中央区元城町103-2
TEL 053-457-2454
E-Mail dsc@city.hamamatsu.shizuoka.jp



浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム
会員登録



参考 | ドローン航路開通式（先行地域秩父エリア・浜松市 同時開催）

秩父エリア のドローン 航路開通式



テープカットの様子
出典：経済産業省



出典：NHK
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250325/k10014760041000.html>

浜松市の ドローン航 路開通式



テープカットの様子
出典：経済産業省



出典：テレ東Biz ワールドビジネスサテライト
https://tbiz.tv-tokyo.co.jp/wbs/news/post_314850

浜松市天竜川ドローン航路の活用事例



小出眼科



服薬指導

小出
眼科



SOKUYAKU



公益社団法人
静岡県薬剤師会
くすり東海堂薬局

診療所でオンライン服薬指導



患者様は診療後、その場で薬局の薬剤師から服薬指導が受けられる。
また、オンライン服薬指導は看護師の付き添いの下行われる為、負担なく安心して受けることができる。

薬局からの処方薬のお届け



ドローン配送
(患者様は診療所にいられる)



薬局では、遠方の医療機関への処方薬の販売がしやすくなると共に、災害時の医薬品の販売にも貢献できる。
将来的には、在庫のある他店からの即薬等の可能性も考えられる。

処方薬受け取り



診療所で受け渡し／支払い（paypay等）



今までは処方薬が届くまでに2～3日掛かっていたところ、ドローン配送では約30分で手元に届き「便利になった」とコメントをいただいた。
浜松市様からも「これを機に更なる運用の最適化、未来の物流を作り上げたい」とコメントをいただいた。



河川の巡視や点検



森林の巡視や点検



道路の巡視や点検



災害時状況把握





【運航情報】静岡県浜松市内でのドローン自動飛行（2025年3月）

運航情報

Trajectory

弊組合では天竜川上空にてドローンを使用した医薬品配送を実施します。
何卒ご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

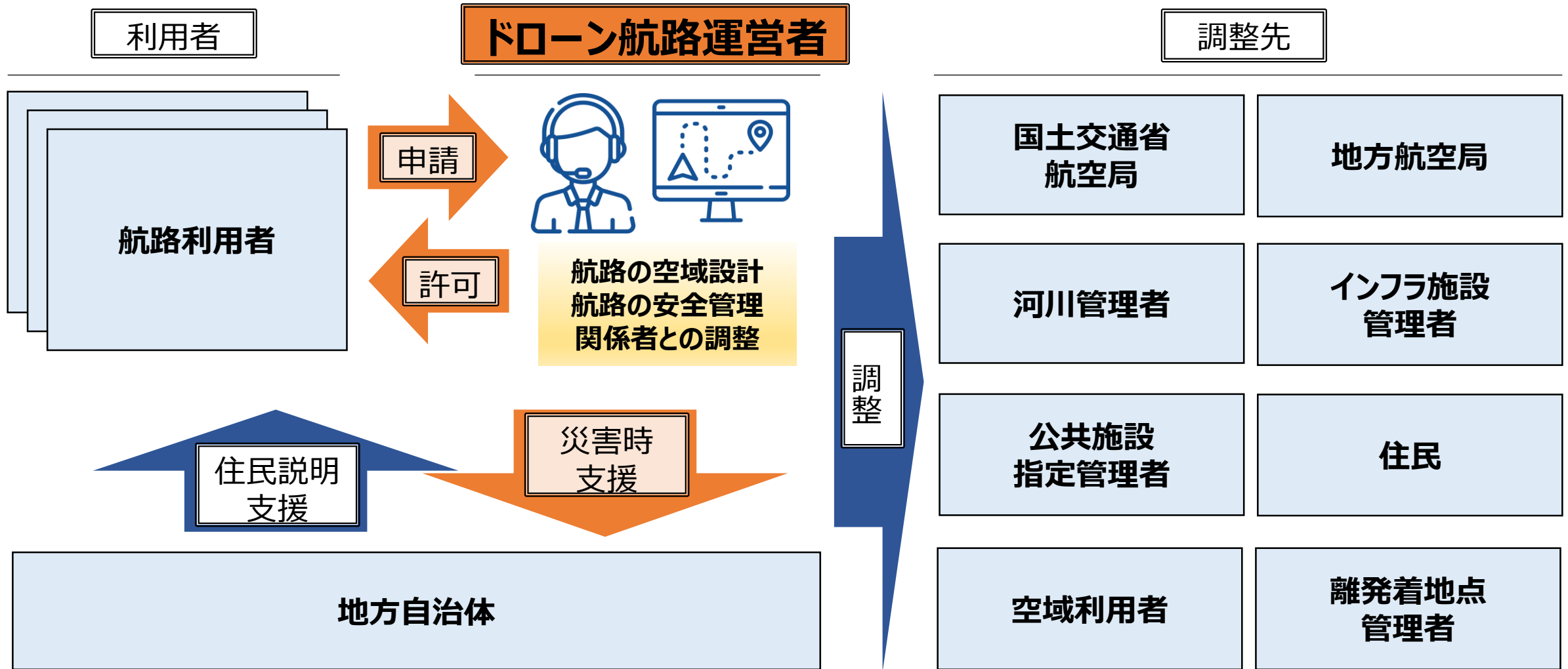
1 運航計画（3月1日～3月31日）

日付	時間
3月5日（水）	13：00～14：00
3月6日（木）	10：00～12：00
3月11日（火）	10：00～12：00
3月12日（水）	15：00～16：00
3月13日（木）	15：00～16：00
3月14日（金）	13：00～15：00
3月17日（月）	13：00～15：00
3月18日（火）	14：30～16：00
3月21日（金）	13：00～15：00
3月25日（火）	14：00～15：00

		あたご方面	春野方面	備考
2025年	3月	2回		
	4月	2回	1回	
	5月	2回	1回	
	6月	2回	1回	
	7月	2回	2回	雨天中止あり
	8月	1回		万博展示あり
	9月	2回	2回	
	10月			定期メンテナンスあり
	11月	1回	1回	定期メンテナンスあり
	12月	1回		
2026年	1月	2回	1回	予定
	2月	2回	1回	予定
	3月	2回	1回	予定
合計		21回	11回	

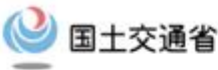


- ドローン業界全体として、各事業者による重複投資や共通コスト負担（調整業務）のため、市場全体で拡大に制約が生じ、社会実装が進まない原因となる。
- ドローン航路運営者として、調整業務を一手に担うことによって航路利用者（ドローン事業者）の調整コストを低減する。



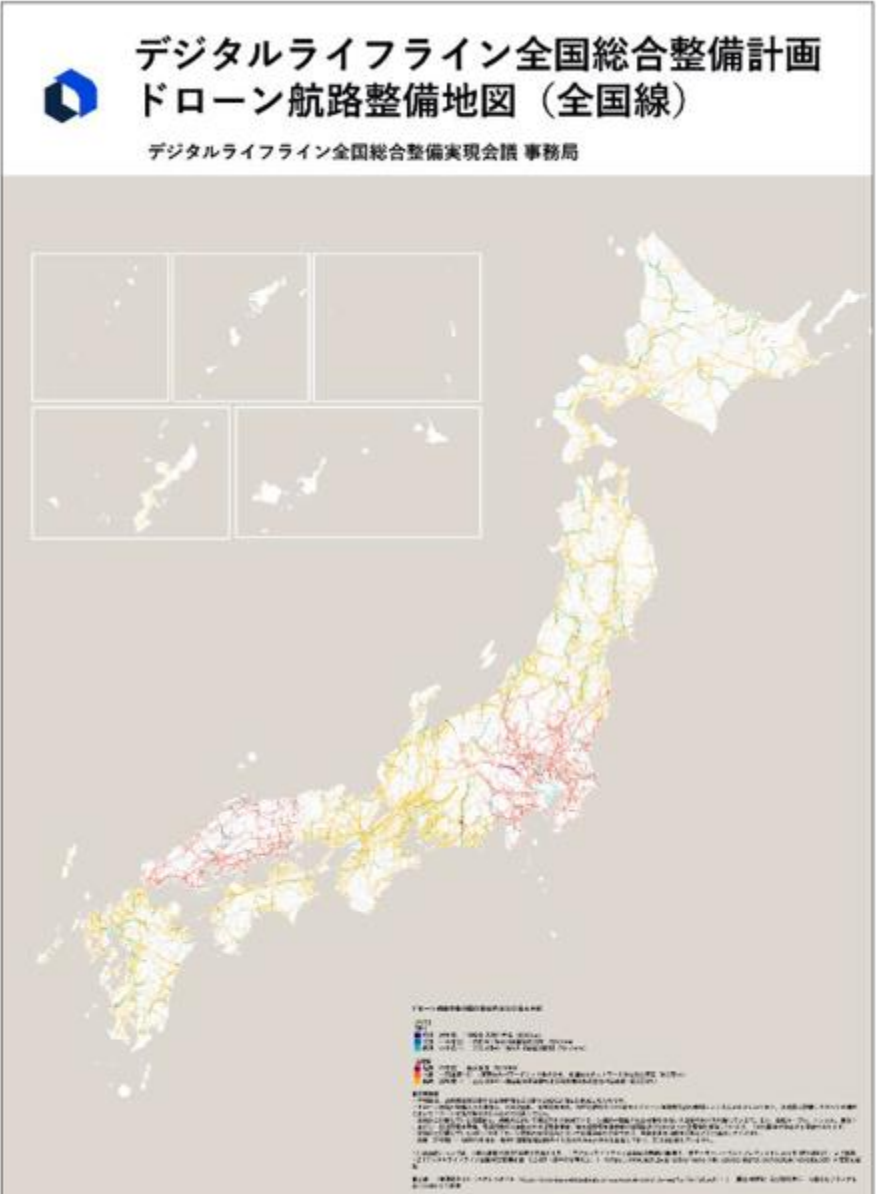
ドローン航路ロードマップ

凡例
官主導の取組
民主導の取組

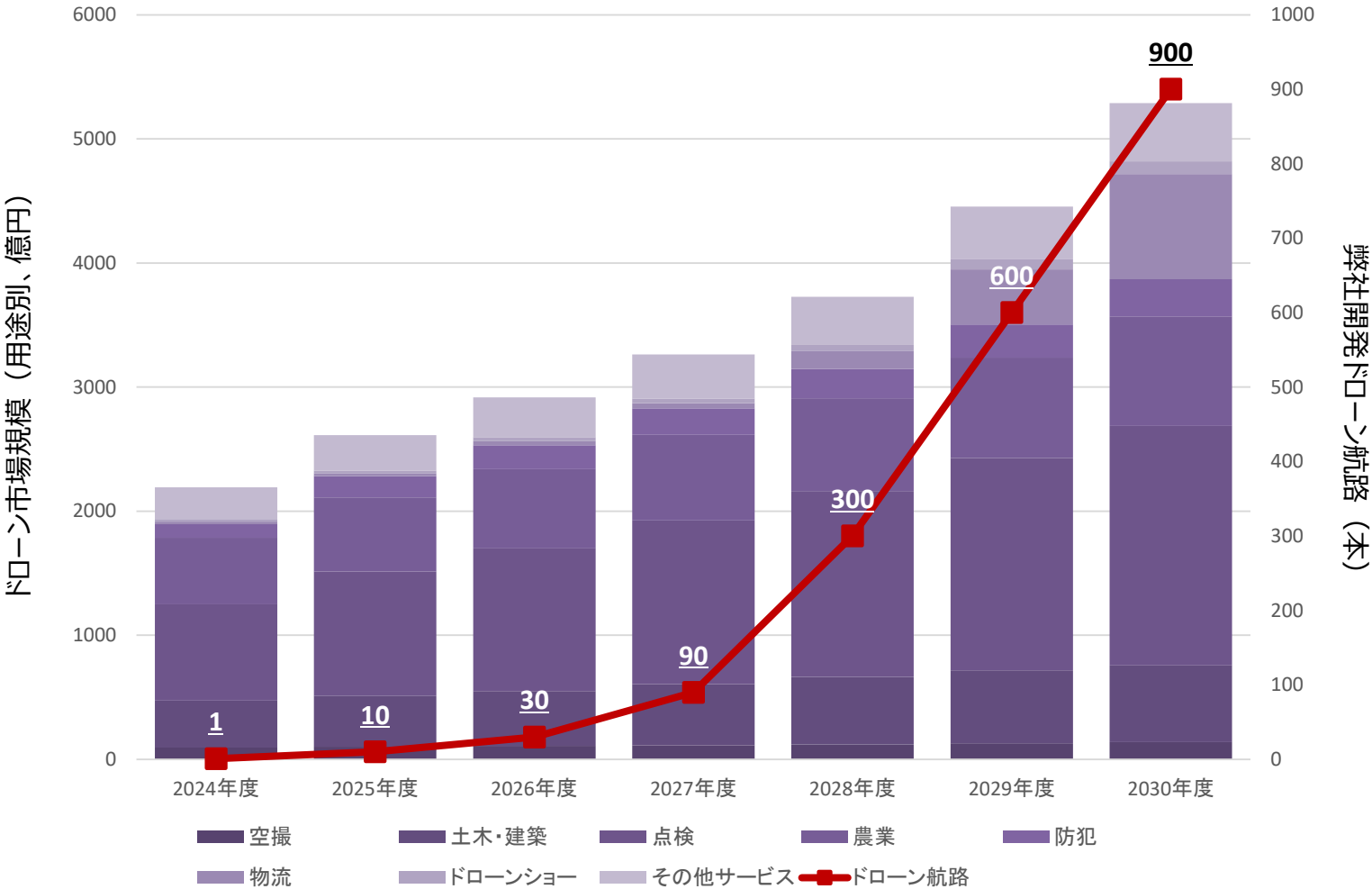


			短期 (2024年度)	中期(2025~26年度)	長期(2027年度以降)	
マイルストーン			ドローン航路システム (OSS ¹) 及びガイドラインを整備し、先行地域における社会実装を実現	ドローン航路の相互乗入の実現と認証・登録制度の整備により全国展開を推進	全国展開の着実な実施に加え、デファクト・フォーラム・デジュールの国際展開を推進	
社会実装	全国線	河川	河川巡視・点検への映像データ活用検討	SRS ² 整備・ドローンによる河川巡視・点検効率化/高度化 全国の1級河川直轄管理区間 総延長約100km	SRS ² 整備・ドローンによる河川巡視・点検効率化/高度化 全国の1級河川直轄管理区間 総延長約1万km	
		送電線	天竜川中流域直轄管理区間に航路整備 総延長約30km	ドローン航路運営者が地方自治体及び地場民間事業者等と協力して航路整備 全国の一級河川直轄管理区間上空		
	地方線	送電線	秩父地域の送電線上空に航路整備 総延長約150km	関東地方及び中国地方の中山間地域をはじめとした送電線上空に航路整備 総延長約1万km *27年度を目途		全国の中山間地域をはじめとした送電線上空に航路整備 総延長約4万km
				民間事業者、地方自治体等がドローン航路認証・登録を前提に協調的に整備		
技術開発			ドローン航路システムの設計/開発及び参照実装OSSの公開	ドローン航路システム参照実装OSSの高度化	民主導のドローン航路オープンソースコミュニティの立ち上げとドローン航路システムOSSの管理・高度化実施	
環境整備	ガバナンス		ドローン航路及びドローン航路システムの仕様・運用/利用方法を定めたガイドライン及び規格の策定	ドローン航路登録制度の運用に向けた検討及び先行実証	ドローン航路登録制度の本運用開始	
				ガイドライン改版及び規格拡充	ガイドラインの随時改版及び国際標準団体へのハンドオーバー	
	航空行政との調和		認証・登録済みドローン航路を活用した飛行の航空法上の許可・承認申請の事前作業簡略化検討と実証		ドローン航路システムのドローン情報基盤システム (DIPS) 連携の実施	
			ドローン航路とUTM ³ の関係性整理	USP ⁴ 認定制度との整合性検討	ドローン航路システムのUTMS連携の実施	
			ドローン航路とATM ⁵ の関係性整理	SWIM接続要件の検討及び実証	ドローン航路システムの航空情報共有基盤 (SWIM) を通じたATM連携の実施	
	国際展開		国際展開に向けた論点整理と戦略検討	国際標準規格素案検討	ドローン航路関連規格の国際標準化活動 (デジュール/フォーラム) 推進	
			ドローン航路の国際市場展開 (デファクト) を推進			

1. Open-source Software 2. Smart River Spot 3. Unmanned Aircraft System Traffic Management 4. UTM Service Provider 5. Air Traffic Management

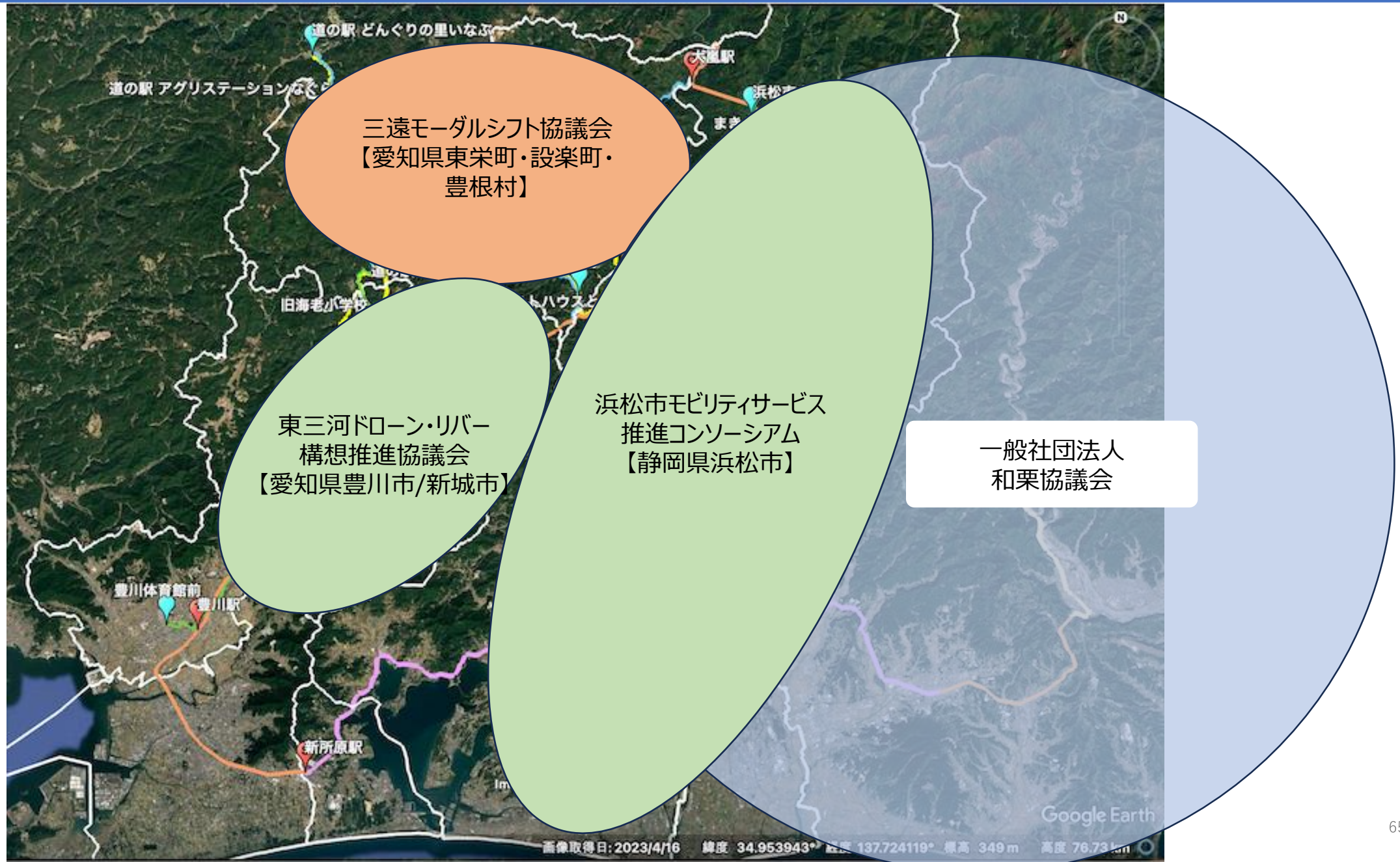


- ドローン市場の拡大と共にドローン航路の整備を行う
- 昨年度の浜松市をスタートに全国に拡充する



【出典】第2回 ドローン航路普及戦略ワーキンググループ： https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/digital_architecture/lifeline.html





“空間をつなげる、人がつながる”



Trajectory
トラジェクトリー

委員からの報告事項・提案等

委員からの報告事項・提案等



金融分野 田村委員

2026/01/13

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム運営委員会

FDUA地域Meetup in 浜松 開催報告



あなたの夢に、追い風を。

浜松いわた信用金庫

開催概要



日時：2025年12月8日（月）
会場：Co-startup Space & Community FUSE
主催：一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）
共催：特定非営利活動法人金融IT協会（FITA）
後援：金融庁、浜松市

※ 一般社団法人金融データ活用推進協会（FDUA）について

金融業界横断で実務的なAI・データ活用を推進する組織
2022年設立、2026年9月末現在の会員は423団体（うち金融機関238社）
金融機関、ITベンダー、大学、行政などで構成

開催概要

■ 第一部 ～ AI勉強会・デザイン思考体験会 ～

金融機関・事業法人・自治体などが参加し、生成AI勉強会とデザイン思考体験会を実施

■ 第二部 ～ 金融機関を中心としたMeetup ～

金融機関における生成AI・データ活用事例の共有、知見のアップデート
事例紹介

パネルディスカッション

来賓ご挨拶（金融庁、浜松市）

■ 懇親会

地域活性化に向けた情報交換や横の繋がり の構築の場

第一部 ～ AI勉強会・デザイン思考体験会 ～



第一部 ～ AI勉強会・デザイン思考体験会 ～

第一部 ～ AI勉強会・デザイン思考体験会 ～

講師：小川 幹雄 氏（DataRobot Japan副社長 AI&サービス統括部長）

内容：AI活用ワークショップ／導入講義（越境とデザイン思考）
／グループワーク／発表

生成AI（データ活用）に関心のある事業会社の方々とともに、AIとは何かを学び、工夫しながら積極的に用いる気概を高めること、および地域としてAIを積極活用していくための意識醸成を目的として実施しました。

第二部 ～ 金融機関を中心としたMeetup ～



第二部 ～ 金融機関を中心としたMeetup ～

第二部 ～ 金融機関を中心としたMeetup ～

事例紹介：田村 和也（浜松いわた信用金庫 デジタル推進部 部長）

影目 直之 氏（静岡銀行 DX推進部 グループ長）

パネルディスカッション：

第4回金融データ活用チャレンジ（データコンペ）開催に向けて

棚橋 要介 氏（大垣共立銀行）

篠田 泰之 氏（大垣共立銀行）

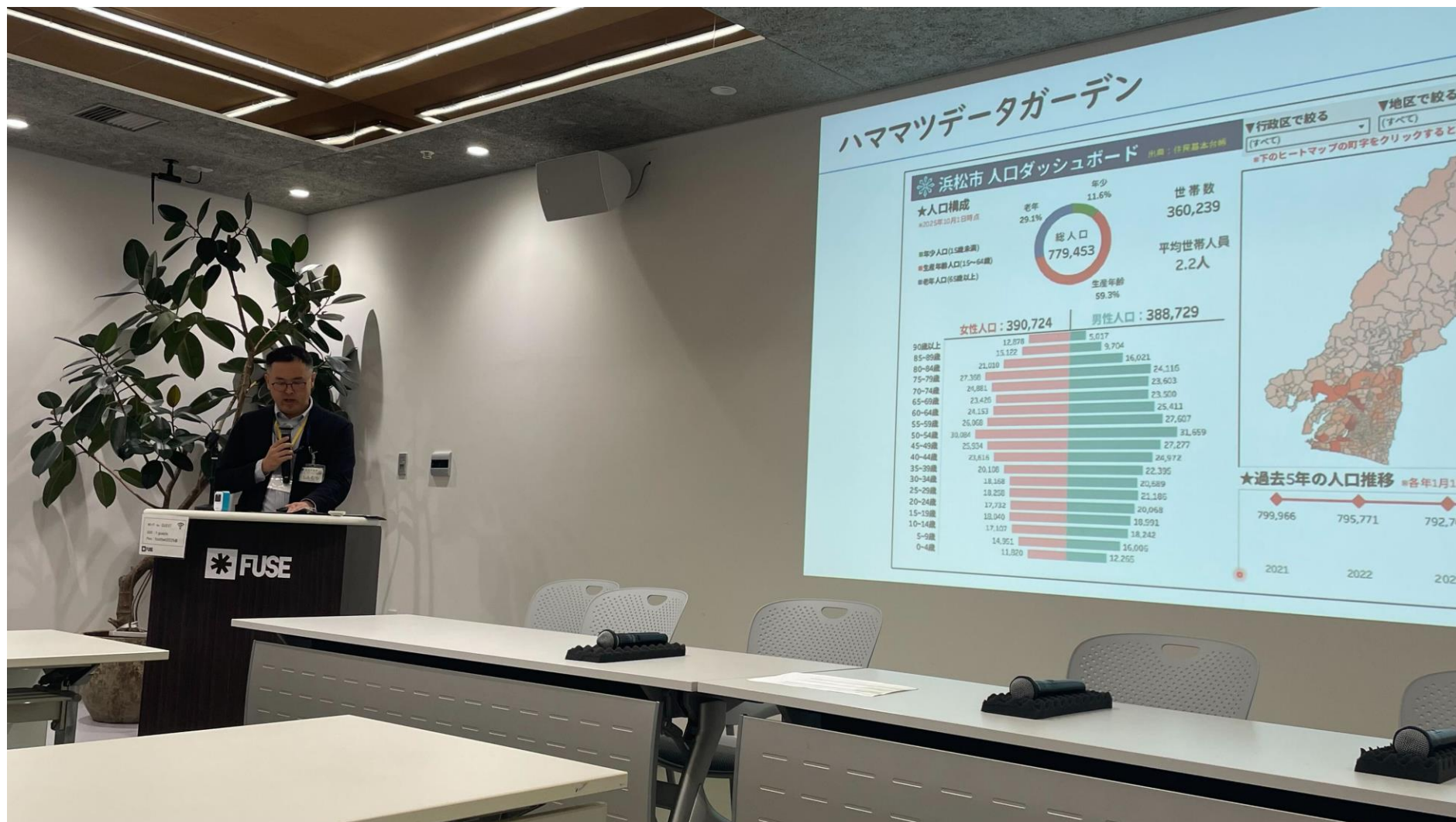
小宮 成智 氏（信金中央金庫）

大坪 稔樹 （浜松いわた信用金庫）

モデレーター 箕輪 郁雄 氏（JPX総研）

金融機関における生成AI・データ利活用、デジタル人材育成等の事例を共有し、知見のアップデートや自社における推進のヒントを得ることを目的として実施しました。

来賓ご挨拶



来賓ご挨拶

来賓挨拶：宮川 貴彦 氏（金融庁 総合政策局 フィンテック参事官室 イノベーション推進室 課長補佐）
新村 仁 氏（浜松市 デジタル・スマートシティ推進課長）

浜松市デジタル・スマートシティ推進課の新村課長からご挨拶を頂戴し、「ハママツデータガーデン」等のオープンデータ活用事例や庁内のデジタル化推進の取組みをご説明いただきました。

80名が参加



参加金融機関

● 銀行

大垣共立銀行
静岡銀行
スルガ銀行
百五銀行
山梨中央銀行

● 信用金庫

遠州信用金庫
岡崎信用金庫
蒲郡信用金庫
しずおか焼津信用金庫
島田掛川信用金庫
静岡信用金庫
瀬戸信用金庫
豊川信用金庫

豊田信用金庫
豊橋信用金庫
沼津信用金庫
浜松いわた信用金庫
富士信用金庫
富士宮信用金庫
三島信用金庫
横浜信用金庫

● 労働金庫

静岡県労働金庫

● 中央機関

信金中央金庫
全国労働金庫協会

● 証券・取引所関連

JPX総研

● アセットマネジメント

三菱UFJアセットマネジメント

※50音順

成果

共創 地域・日本の未来のために



天竜川・浜名湖地域合併20周年

行政
自治体

地域企業

金融機関

ITベンダー

主催者であるFDUAを中心に、多様な組織からの参加者が知見を共有。

地域におけるAI・データ利活用を、参加者それぞれのリソースを活用しながら連携して進める意識の醸成が図られました。

地域・日本の活力創出という大きな目標に向けて、相互の協力・切磋琢磨を促進させる有意義な場となりました。

委員からの報告事項・提案等



大学分野 金原委員

G4 スマートコミュニティの実現



AIやIoTを活用した
スマートシステムの研究開発



スマート社会を担う人材育成

AI・IoTの活用や人材育成により、地域課題
を解決するスマートコミュニティを実現



地域課題を解決する
スマートコミュニティの実現

- ・スマートコミュニティ実践の場
- ・地域産業や社会のスマート化
- ・災害対応技術やインフラ維持管理
- ・スマート社会を牽引する人材の
持続的な育成体制構築

G4 スマートコミュニティの実現

AI・IoTの活用や人材育成により、地域課題を解決するスマートコミュニティを実現

スマート社会を牽引
する人材育成

データサイエンス、AI、IoT、領域情報学など、スマートコミュニティ関連分野の学部・大学院プログラムを拡充し、地域産業のスマート化、スマート社会を牽引する人材を輩出

スマートシステム関連研究の
推進と社会実装

地域課題解決に資する革新的なスマートシステム関連技術、サービスを開発し、研究成果の社会実装を加速するための、産学官連携プラットフォームを構築

スマートキャンパスを基盤と
した実践の場

大学をスマートコミュニティの実践の場とし、大学の持つ資源を最大限に利活用することで、地域社会との連携を強化しつつ地域課題解決や地域活性化に貢献

地域産業や社会の
スマート化を推進

地域産業の競争力強化、新たな雇用創出、地域社会を活性化させるだけでなく、多様なステークホルダーとの協働による地域産業や社会のスマート化を推進

災害対応技術や
インフラ維持管理支援

AI・IoTを活用し、自治体・企業・住民と連携してインフラの予知保全や災害時の迅速な対応を支援する技術を研究開発し、地域のレジリエンスと持続可能性に貢献

委員からの報告事項・提案等



産業（ものづくり）分野 吹野委員



SHIZUOKA
VENTURE
STARTUP
ASSOCIATION

静岡ベンチャースタートアップ協会

挑戦の地「静岡」から、
その一歩が世界を変える。

静岡ベンチャースタートアップ協会 活動説明資料

ミッション

挑戦の地「静岡」から、その一步が世界を変える。

静岡の地から、新たな挑戦が始まります。



ここ静岡で始まる一步が、やがて仲間を呼び、連鎖し、地域を超えて世界に届く。
“やрмаいか”——まずはやってみよう。挑戦する気持ちが、静岡の新しい当たり前になる。



ロールモデルが現れ、誰もが学び合い、互いの背中を押し合える。だからこそ、誰の中にも眠る「挑戦」が自然と目を覚ます。SVSAは、そんな一步を踏み出すあなたの一番の伴走者です。



静岡の多様で熱いアイデアが出会い、化学反応を起こして、挑戦の連鎖が巻き起こる。
「挑戦したい」「変えたい」と思ったその瞬間から、未来はあなた自身が創り出すものになる。
静岡を、挑戦するすべての人が「自分ごと」として未来を描ける土地に。

設立背景

静岡発、挑戦者の熱が連鎖する。 点が面となり、静岡県全体のうねりへ



コミュニティが分散している

静岡県内では、浜松・静岡・三島など各地にスタートアップコミュニティが点在し、それぞれ独立して活動してきました。エリアごとにネットワークや支援の仕組みが異なり、県全体を横断する発信力や、意見集約・政策提言の仕組みも未成熟。連携機会や成長の機会に、地域格差が生じていました。



若年層の県外流出

「静岡に帰りたい」「静岡で新しい価値を創りたい」と思える環境や、“やってみよう”と思わせてくれるロールモデル、仲間との学び合いの場が、十分にありませんでした。アントレプレナー教育や支援プログラムの浸透も途上で、挑戦を後押しする地域文化やエコシステムの再構築が急務となっています。



連携機会の不足

首都圏との情報格差により、ベンチャーキャピタル（VC）、コーポレートベンチャーキャピタル（CVC）、行政、金融機関との連携や協働の機会も限られていました。特にアリーステージの経営者には、実効性のある支援や情報が十分に届いていない現実があります。

SVSAの役割：地域横断型プラットフォーム



点



面



うねり

だからこそ今、私たちは静岡の挑戦者たちの声を束ね、コミュニティ同士をつなぐ「かけ橋」となります。

SVSAが中核を担うことで、独立していた“点”の挑戦者それぞれの熱を結び、“面”としての繋がりをつくり出す。

そしてそれが、静岡県全体を揺り動かす“うねり”へ成長し、誰もが「挑戦したい」「自分もできる」と思える文化・エコシステムを形づくりします。

地域・業種・世代を越えた挑戦者たちの熱が集い、モデルケースや失敗事例もオープンに共有されることで、「挑戦の連鎖」が次々と生まれる。

静岡発のエコシステムが全県に波及していく。その先にこそ、静岡の新しい未来が拓けると私たちは信じています。

協会概要

一般社団法人 静岡ベンチャースタートアップ協会

名称 一般社団法人
静岡ベンチャースタートアップ協会 (SVSA)

設立 2024年4月3日

理事長 篠原 豊 (エバーコネクト)

初代理事長 鈴木 康友 (静岡県知事／現 顧問)

活動拠点 静岡・浜松・三島の3拠点体制

目標：3～5年で500社超のスタートアップ誘致・育成



静岡ベンチャースタートアップ協会

静岡県のスタートアップエコシステム

静岡県では、企業の成長段階ごとに複数の支援主体が連携し、スタートアップ創出から社会実装・イノベーション共創まで一貫したサポートを提供しています。各組織が特性やリソースを活かし、県全体のイノベーション推進を加速しています。

成長段階別・支援体制の全体像

1 起業前～シード・アーリー

支援主体: SVSA

主な機能

- 🏠 起業家教育プログラム
- ⚙️ スタートアップ認定制度
- 📢 政策提言・行政連携
- 🤝 伴走支援・メンタリング

2 アーリー～IPO

支援主体
SVSA / SIB(Shizuoka Innovation Base)

主な機能

- 💰 資金調達支援
- 📄 上場(IPO)支援
- 👥 ファンド連携・紹介
- 🌱 成長期の経営支援

3 社会実装・共創

支援主体: 静岡市コ・クリエーションスペース

主な機能

- 🏢 行政・企業・大学の共創拠点
- 🗣️ オープンイノベーション推進
- 💡 地域課題解決の実験場

※2025年度よりSVSA運営

SVSAのオンラインコミュニティ

Slackを活用した県横断型コミュニティ「Shizuoka Startups Community」でリアルタイムの情報共有と地域課題・成功事例の横展開を実現。

事業内容

コミュニティ強化と成長の場



中学～大学への出前講座・起業体験授業

静岡県内の教育機関と連携し、次世代の起業家育成を推進。静岡県出身の経営者による実体験に基づく授業を通じ、若者のアントレプレナーシップを醸成します。



「Startup Weekend」シリーズ 400名+

静岡県各地で開催する起業体験イベントには延べ400名以上が参加。実践的な環境でビジネスアイデアを形にする経験を提供し、地域発のイノベーションを促進しています。



プレ起業家向けワークショップ

スタートアップに関連する勉強会、セミナー、交流会などのイベントを通じて、静岡県内のスタートアップコミュニティの発展を促進。起業への第一歩を支援します。



個別伴走支援でスタートアップ設立へ

本気で起業を目指すチームへの個別サポートを通じ、実際にスタートアップ設立へと導きます。投資家やメンター、土業との接点を提供するなど、成長ステージに合わせた支援を実施しています。



認定・研修プログラム

信頼性の高い制度設計：県内外の一流専門家・実績ある起業家との連携により質の高い認定・研修システムを構築。スタートアップと支援者双方の成長を促進します。

スタートアップとサポーターの成長を支える信頼性の高い支援制度



スタートアップ認定制度

静岡県内または静岡県出身の起業家が率いるスタートアップを対象に、協会独自の審査基準に基づく認定制度を提供。認定企業には様々な支援と連携機会が開かれます。



段階別研修プログラム

経営層・従業員それぞれに対し、成長フェーズに応じた段階別研修を実施。実践的なノウハウと知見を体系的に学べる機会を提供。



アクセラレーター認定・研修制度

スタートアップ支援者の質向上を目指し、アクセラレーターの認定と専門研修を実施。支援者側の質的向上により、エコシステム全体の底上げを図ります。



成長支援と福利厚生サービス

スタートアップの成長と資金調達、福利厚生などをサポート



資金調達・投資情報交換

スタートアップ向け資金調達・投資情報交換プラットフォームを提供。県内企業間の投資マッチングや資金調達ノウハウの共有を促進し、資金面での成長をサポートします。



シェアオフィス提携

シェアオフィス・コワーキングスペース優待提携で働く環境を整備。静岡・浜松・三島の主要エリアを中心に、スタートアップが柔軟に活動できる拠点を確保します。



福利厚生プラン（準備中）

保険・健診・レジャー施設優待などの福利厚生プランを提供。資金や人員が限られるスタートアップでも、大企業に負けない福利厚生を実現し、人材確保・定着に貢献します。



合同入社式（準備中）

合同入社式の開催による採用ブランディング強化を実現。メディア露出の機会を増やし、各社の採用活動を後押しします。新入社員同士のネットワーク構築も促進します。



コミュニティ強化と成長の場

インパクトスタートアップの成長を支援

金融機関、大学、VC、上場企業、自治体を巻き込み、静岡県内でのスタートアップエコシステム構築のため意見提言を行います。共通の課題に対して共同で解決策を模索し、地域全体の発展に貢献しています。



定期イベントの開催

4月しずスタ戦略会議／6月しずスタサミットを定期開催。静岡県全体の起業文化発展とスタートアップエコシステム強化に向けた議論の場を提供します。



多様な関係者の交流促進

投資家・行政・起業家が集うピッチコンテストや勉強会を開催。特にアトツギピッチ（偶数月開催）では事業承継者向けのピッチ練習と専門家からのフィードバック機会を提供しています。



コミュニティ形成支援

若手経営者や学生間の交流を促進し、県内エコシステムを可視化。スタートアップ同士で投資家を紹介し合う機会を設けるなど、組織を超えた情報交換と知見共有の場を提供します。



若年層向け起業家育成

TOMOLプロジェクト（1月開催）では、15～40歳のIT人材を対象にした起業家育成プログラムを実施。8ヶ月間の成長プロセスを通じて社会実装を目指します。



連携実績と信頼性



しずスタSUMMIT2025

設立1周年記念イベント

静岡市開催・150名参加。県知事・市長・VC・起業家が登壇し、地域スタートアップエコシステムの未来を議論。行政トップセッションでは「スタートアップ支援の県市連携強化」が明言され、静岡発のイノベーション創出に向けた強固な連携基盤が構築されました。



Dual Track

静岡市協業支援事業

地域企業15社 × スタートアップ12社が共創するプログラムとして大きな成果を上げています。篠原理事長が審査員として登壇し、地域課題解決とビジネス成長の両立を目指す先進的な取り組みとして注目を集めています。



裾野市 地域イノベーションキックオフ

市内視察や地域イノベーション戦略の発表など

静岡県知事、裾野市長・副市長およびスタートアップ・企業・金融関係者・起業家らが登壇し、裾野市の強みや産業、人材連携、イノベーションに関するディスカッションが実施されました。SVSA（静岡ベンチャースタートアップ協会）が運営し、裾野市の地方発イノベーション基盤が全国へ発信される意義深いイベントとなりました。

行政・金融・企業・大学が"同じ船"に乗り、
地域から世界を目指す共創モデルが始動しました。

主なイベントスケジュール (2025-2026実績)

SVSAが主催・運営する年間プログラム



しずスタ戦略会議

4月



県の戦略を共創する政策対話フォーラム。鈴木県知事をはじめとする行政担当者が一堂に会し、静岡県全体の起業文化発展とエコシステム強化に向けた議論を行います。行政予算成立後の重要な場として毎年開催。



しずスタサミット

6月

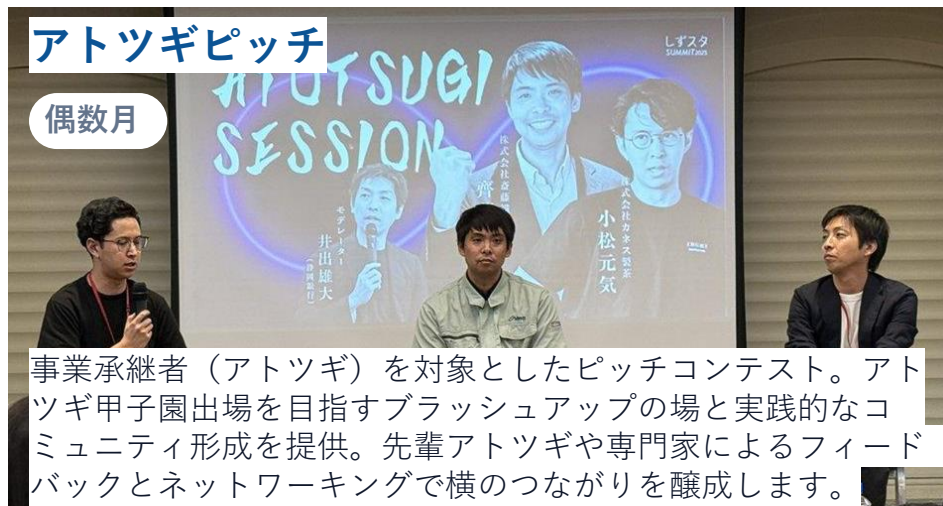


スタートアップ・アトツギ・学生・行政・投資家など約150名が集結する交流イベント。リアル会場だけでなく、オンラインやサテライト会場も活用し、静岡県内の多様なエネルギーが交錯する場を創出します。



アトツギピッチ

偶数月



事業承継者（アトツギ）を対象としたピッチコンテスト。アトツギ甲子園出場を目指すブラッシュアップの場と実践的なコミュニティ形成を提供。先輩アトツギや専門家によるフィードバックとネットワーキングで横のつながりを醸成します。



TOMOLプロジェクト

1月



静岡県発15～40歳のIT人材を対象とした起業家育成プログラム。「原体験×社会課題×テクノロジー」を掛け合わせ、8ヶ月間で若者の情熱を社会実装へと導きます。最終プレゼンでは成長した若者たちが社会課題に挑むビジネスプランを発表します。

行政連携・支援スキーム



政策提言

SVSAや地元プレイヤーからは、起業初期段階支援、大学・研究機関との連携強化、自治体間の知見共有など幅広い政策提言が行われています。



コミュニティイベント・リバースピッチ

キックオフイベント等で、地域企業や行政が課題やニーズを発信し、スタートアップ側が新サービスや技術で提案を行うリバースピッチ形式のプログラムも導入されています。



アクセラレーションプログラム・伴走支援

SVSAなどが主催するアクセラレーションプログラムも展開され、採択スタートアップには市内実証機会、事業拡大サポート、メンター・投資家紹介など伴走型支援が提供されています。



自治体連携促進

静岡県全体での連携強化が進み、「県市連携モデル」として裾野市の事例が他自治体にも展開されています。各自治体の独自施策と広域連携がシナジーを生み、総合的なスタートアップ支援基盤が拡充されています。



大学連携

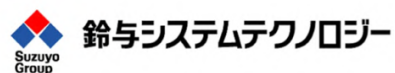
静岡大学

静岡県立大学

静岡県内の大学を中心に、起業家育成・研究成果の事業化支援・実証フィールドの提供など、地域イノベーションのコアエンジンとして機能しています。

パートナー企業一覧

SVSAのミッションを支える信頼できるパートナー企業



会員特典

会員種別ごとの特典と提供価値

特典	パートナー会員 年額60万円	学生・スタートアップ 会員 無料
公式サイトへのロゴ掲載	✓ 企業ロゴを優先的に掲載	✓ 起業後の法人名を掲載
イベント参加	✓ 全イベント無料参加 協賛枠の優先確保 スピーカー登壇機会	✓ 全イベント無料参加
オンライン コミュニティ	✓ SVSA SlackでのPR、 共催イベントの企画運営	✓ コミュニティ参加
マッチング支援	✓ スタートアップ・行政・ 大学との個別マッチング	✓ オンラインマッチング

一般会員の主な価値



ブランド価値の向上／政策提言への参画
スタートアップ支援企業としての認知度向上と、静岡県の産業政策に対する直接的な提言機会を獲得できます。



優秀人材との接点／地域経済との共創機会
静岡県内外の優秀な起業家やイノベーターとの接点を持ち、新たなビジネス機会の創出が可能になります。



エコシステム中核プレイヤーとしての立ち位置
静岡県のスタートアップエコシステムにおいて、中心的な支援者・協力者としての地位を確立できます。

- SVSAへの協賛に加えて、企業PR・広報強化のための多様なオプション企画を選択できます。**
- ① 静岡ビジネスコンパスでは、協賛企業の協賛意図やスタートアップ連携への期待を記事として掲載、地域ビジネスメディアで広く発信。
 - ② ラジオセット企画では、SBSラジオ & Podcast「スタートアップ最前線」新番組へ月1回出演でき、企業の活動やサービスPRの場となります。
 - ③ 静岡新聞全5段広告セットでは、新聞全県版にインタビュー記事体広告を掲載し、SVSA協賛やスタートアップ連携への思いを県内全域に伝えることができます。

SBSラジオ & Podcast

SBSラジオで「cosa発！静岡スタートアップ最前線」というラジオ番組がスタート！

よろしければラジオ・Radiko、Podcastでお聴きください！

収録後の連動企画イベント「しずスタミートアップ」@cosa（毎月第2金曜18:30）は名刺を持ってお越しください。



SVSAに参加しよう

静岡ベンチャースタートアップ協会（SVSA）は、静岡にゆかりのある多様なプレイヤーが集い、オープンイノベーションによる地域発の社会変革に挑戦するコミュニティです。

参加対象者



静岡にゆかりのある
スタートアップ・起業家



オープンイノベーションを
目指す中小企業・大企業



大学・アクセラレーター
投資家・自治体

参加方法



公式サイト：startup.shizuoka.jp



お問い合わせ：info@startup.shizuoka.jp

Facebook



Slack



静岡から「世界を変える一歩」を共に踏み出しましょう

SVSA理事一覧



エバーコネクト
理事長 篠原 豊



Wewill
副理事長 杉浦 直樹



リンクウィズ
副理事長 吹野 豪



静岡県知事(前浜松市長)
初代理事長 鈴木 康友



イノベーション (SIB代表理事 兼務)
理事 富田 直人



CFスタートアップス
理事 出縄 良人

SVSA理事一覧



ビタミン
理事 高梨 大輔



ビタミン
理事 高松 裕美



Geolocation Technology (SIB理事 兼務)
理事 山本敬介



フジ物産
理事 山崎 伊佐子



ハヤテグループ
理事 杉原 行洋



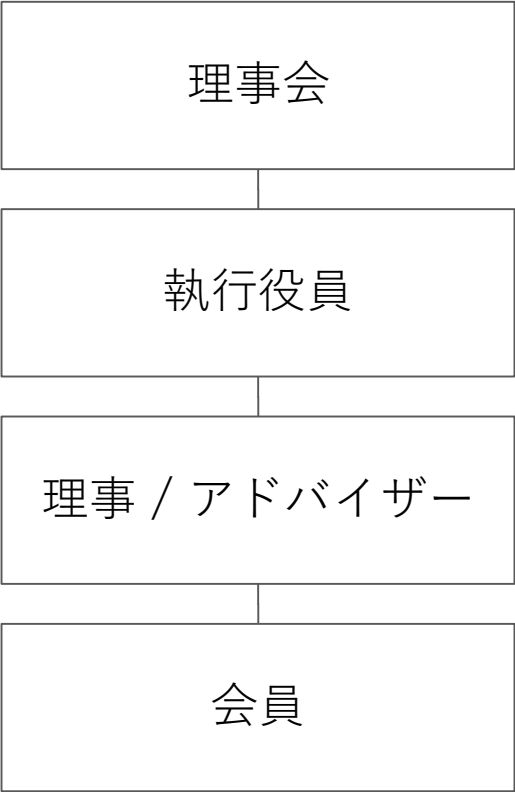
Wewill
理事 瀧下 且元

SVSA理事一覧および運営体制（2025年10月時点）



EXPACT / Happy Quality
理事 高地 耕平

運営体制図



静岡ベンチャースタートアップ協会

理事長	エバーコネクト	篠原 豊
副理事長	WeWill リンクウィズ	杉浦 直樹 吹野 豪
執行役員	エバーコネクト WeWill リンクウィズ フジ物産 Geolocation Technology EXPACT WeWill	篠原 豊 杉浦 直樹 吹野 豪 山崎 伊佐子 山本 敬介 高地 耕平 瀧下 且元
理事	イノベーション CFスタートアップス ビタミン ビタミン	富田 直人 出縄 良人 高梨 大輔 高松 裕美
アドバイザー	静岡県知事 トーマツ eiicon 日本総研	鈴木 康友 渡邊 信明 伊藤 達彰 東博暢

委員からの報告事項・提案等



社会資本・インフラ分野 平井委員

各委員からの取組発表

■土木部が取り組む「道路冠水情報提供システム」が令和7年度中部DX大賞を受賞!!

事業名：センサーと遠隔警告灯で冠水を即時通知！車両被害ゼロを目指す浜名区のスマート防災

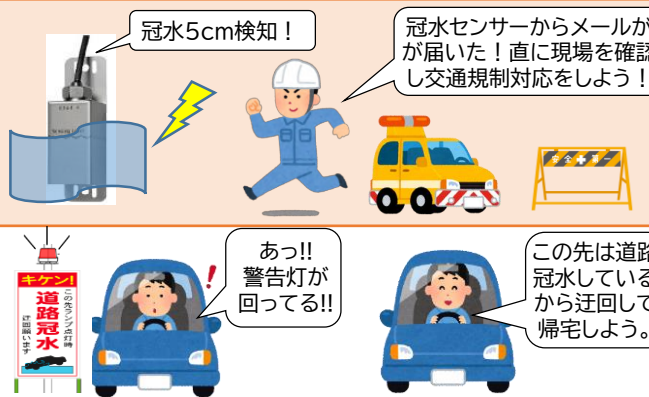
- ・近年、短時間豪雨の頻発化に伴い市内各所で道路冠水が発生。
- ・冠水発生は、市民等からの通報に頼っており、発生後の交通規制対応に時間を要することが課題となっていた。
- ・このため、冠水センサーと遠隔警告灯により冠水発生箇所よりも手前で道路利用者へ冠水発生を知らせて迂回を促す「道路冠水情報提供システム」を民間業者と開発。
- ・これにより、タイムリーに道路冠水発生を把握・情報提供が可能となり、交通規制の初動対応の迅速化も期待できる。

※R7.12末現在、過年度の冠水発生履歴を基に、冠水センサー9箇所、遠隔警告灯11箇所を設置・運用中

導入前



導入後



【中部DX大賞とは】

- ・中部地方整備局管内において、インフラ分野のDXに係る優れた実績を挙げた取組を表彰
- ・インフラ分野の生産性向上や省力化に資する先進的なDXの取組を広く募集し、審査の結果、地域の未来を切り拓く表彰対象を決定、令和8年1月26日に中部地方整備局(名古屋市)にて表彰式開催

浜名区の道路冠水情報提供システムのモデル図

